

日本共産党 前杉並区議会議員

X(旧 Twitter) ID: @akikocurry



のがき 野垣あきことまちづくりカフェ

子ども・くらし・平和

2024年9月号

連絡先 090-9293-8710 ご相談どうぞ!

旧若杉小跡地の本格活用 ワークショップが始まります

杉並区は、旧若杉小学校跡地の本格活用に向けて、11月から住民参加型のワークショップを開催します。

防災、文化芸術の拠点など 住民と本格活用を検討

杉並区が今年策定した「区立施設マネジメント計画」は、老朽化した施設への対応を検討する際、計画を決める前に住民とともに対話を進めることとしています。

旧若杉小跡地について、区は既存校舎を建替えて活用する方向性を示しましたが、どのような施設にするかはワークショップを4回開催して検討します。

住民団体が杉並区に要望

9月2日、近隣住民でつくる区立施設利用者の会は区に対し「旧若杉小学校跡地活用に関する要望書」を提出しました。

内容は、意見聴取を行う区民や専門家の選定基準を明らかにすること、既存校舎の解体まで体育館・音楽室・視聴覚室など現在使用可能な場所の開放を検討することなどを求めています。

町会は防災の拠点を求める

天沼3丁目は木密地域のため、地元の町会からは、防災の拠点や災害時に対応できるオープンスペースに、との要望や、特定



の目的のための施設建設は慎重に、という意見もあるそうです。

また、今ある重度心身障害児通所施設わかば（上写真）等に移転するのか、併設するのも考えていく必要があります。

ワークショップに参加しませんか

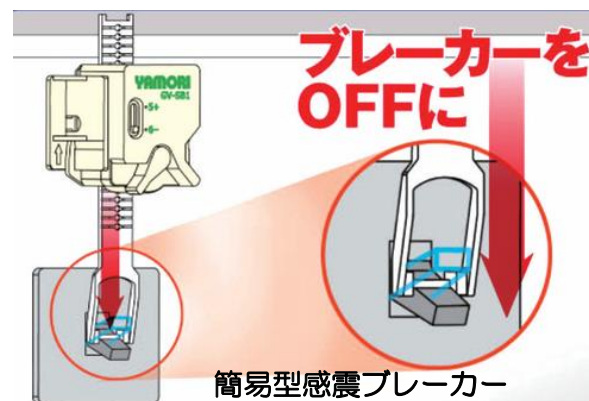
ワークショップは町会や関係団体など30名程度で開催する予定で、そのうち20名程度を募集しています。募集のメ切は9月27日です。詳細や申し込み方法は区ホームページに掲載しています。右の二次元コードからもアクセスできます。



今回ご紹介した旧若杉小跡地の本格活用や区立施設マネジメント計画について、みなさんからのご意見をお寄せください。

地震による電気火災を防ぐ

感震ブレーカー設置支援事業 杉並区が対象を拡大へ



1月の能登半島地震に続き、8月には日向灘を震源とする大規模地震が発生しました。政府は1週間が経過した15日をもって、南海トラフ地震臨時情報発表に伴う「特別な注意の呼びかけ」を終了しました。しかし、日頃からの地震への備えを再確認する必要があります。

杉並区では、震災時の電気火災、通電火災を予防するため、簡易型感震ブレーカーの設置助成を行っています。

感震ブレーカーとは？

大規模地震時に発生する火災の約6割は電気が原因と言われています。感震ブレーカーは、震度5強以上の地震を感知すると、自動的にブレーカーを落として電気を止め、火災の発生を防ぐ器具です。

党区議団は、木密地域が多い杉並区で、電気火災を防止する有効な手段として前区政時代にいち早く質問で取り上げ、助成制度を実現させました。

どうすれば設置できる？

感震ブレーカーの購入にかかる費用は杉並区が負担します。設置の費用は、高齢者のみ世帯や障害者のいる世帯は無料、一般の世帯は一律2000円です。

火災危険度ランク4以上の地域は無料で設置が可能に！

ただし、令和4年9月に都が公表した「地震に関する地域危険度測定調査」で、天沼1・2丁目、本天沼1・2丁目などが火災危険度ランク4とされたため、区は昨年からのこの地域の一般の世帯での設置費用も無料としました。

なお、家庭によっては設置できない場合（医療器具の使用、分電盤の状況など）もあります。設置をお考えの方は区の防災課までお問い合わせください。

賃貸住宅も設置は可能です。承諾書などを提出すると、承認通知が届きます。1～2カ月後に業者が訪問し設置となります。

区の担当者は、「この間は申請が集中していて設置・完了まで3～6カ月位かかっていますが、予算は心配ないので申請は受け付けています」とのことでした。

東京都はコンセント型を配布

東京都でも天沼1丁目、本天沼1・2丁目を対象にコンセント型(コンセントに繋いだ機器のみの通電を遮断させるタイプ)のものを配布しています。

分電盤のアンペアブレーカーを落として屋内全ての電気供給を止めるという区のものとは異なります。区・都への問合せは以下までお願いします。

【杉並区】杉並区役所防災課
03-3312-2111(代)

【東京都】出火防止対策促進事業
コールセンター
0120-888-289

西武線の連続立体交差後の下井草地域をイメージして



杉並区は24日、住民とともに下井草駅周辺のまちづくりの検討を進める下井草まちづくりラボの第3回目を開催しました。

鉄道連立について情報提供

会場には下井草駅周辺の模型が用意され、専門家から西武新宿線の連続立体交差化事業で高架・地下になった際のそれぞれのイメージが語られました。下井草地域のまちづくりにとって大事な課題であり、私も区議会で何度も取り上げてきました。

参加者の関心は高く、休憩中にも何人かが模型を見ながら話す姿もありました。地下化の場合は駅舎をずらして広場を作ることが可能、高架化の場合は線路は4階建てのビルくらいの高さになり、線路の北側には5～9mの側道が必要になるなど、鉄道連続立体交差化の情報が住民に共有され始めたことは前進です。

「まちあるき」の振り返り

今回は「まちあるき」が行われ、その振り返りとして、参加者がまちの魅力、課題、提案や質問を書いて地図に貼りました。下井草の魅力は緑がある場所、課題が集中したのは旧早稲田通りの狭さや歩道の段差、提案や質問は主に駅や線路周辺、商店街に

貼られたことが特徴的でした。

子どもたちと一緒に考える機会に

まちづくりラボの中で、小中学生がまちの将来像を考える「夏休みまちづくりプロジェクト」という取組があり、4名の小中学生がプレゼンを行いました。

5年生の子の感じる課題はサッカーが出来る場所がない、みどりが少ないなど。課題解決のためにスポーツや娯楽(将棋や銭湯など)や屋上庭園のある複合施設を考えたと発表。その模型も展示されました。

6年生の子の発表では、まちあるきで西武線の地下化を求めるポスターを見つけ、地元の人たちは地下化を望んでいるようだ、と紹介していました。

子どもたちの「気づき」や自由な発想に参加者は驚いたり感心したりの連続でした。杉並区の目指す子どもの権利条例の制定に繋がる意見表明の場になったのではと感じました。

今回のまちづくりラボの参加者は34名。傍聴は9名でした。

今後の取組とスケジュールは？

第4回目は9月21日9時から、八区民集会所で開催されます。日大理工学部土木工学課教授の中村英夫氏(東京都事業評価委員会)を講師に、鉄道連立と駅周辺のまちづくりについて勉強します。

傍聴を希望される方は、区役所の市街地整備課・鉄道立体係までご連絡ください。



被爆地まで平和行進を歩く山口さん 戦争体験を語る

8月17日、杉並北9条の会が荻窪で開催した「戦争体験を語るつどい」に参加してきました。戦争体験者を聞く機会が減っている今、とても大切な取組です。

今回話ってくれたのは、阿佐ヶ谷在住で93歳の山口逸郎さん(右写真)。80歳の時から毎年、国民平和行進の通し行進者として奮闘されていることで有名です。また、映画人として平和や原爆をテーマにした作品を何作も世に輩出しています。最初に山口さんの制作した「一歩でも二歩でも」のDVDを観ました。

東京大空襲を生き延びる

山口さんは昭和6年生まれ。向島で東京大空襲に遭い、焼夷弾が花火のごとく落ちてきた恐ろしい光景を生々しく語りました。いつも元気に平和行進を歩く山口さんですが、こういう過酷な戦争体験があったことを聞くのは初めてでした。

平和運動との出会い

20代で助監督として映画界に入り、若杉光夫、木村壮十二、松山善三の3氏に師事。映画「ぶらりぶらり物語」では平和行



山口さんの語った戦争体験の一部をアップ▼



進を再現させます。第10回原水爆禁止世界大会にも参加し、「歩く」では被爆30周年の平和行進そのものを映しました。

当日の山口さんの体験の一部をXで動画にアップしました。上記の二次元コードからぜひご覧ください。

山口さんが関わった主な作品

- 1958年「千羽鶴」
- 1962年「ぶらりぶらり物語」
- 1968年「ヒロシマの証人」
- 1975年「歩く」
- 1976年「ふたりのイーダ」
- 1982年「トビウオのぼうやはびょうきです」
- 1983年「おこりじそう」
- 1989年「ながさきの子うま」等々

【あきりの部屋】

自民党の総裁選の報道がテレビで連日続いています。都知事選の討論会やパラリンピックよりもはるかに報道時間が長いと感じるのは私だけでしょうか。ましてや国民が投票できる訳でもなし、「〇〇をやります」と声高に叫ぶ候補者もいますが、なぜ今までも与党なのにやってこなかったの？それより、国民が求めているのは裏金の真相究明や企業団体献金の禁止。よく考えてよね！と思いますが、投票するのは自民党員。「裏金政治をやめさせます」なんて言ったら総裁にはなれないのでしょうか…。

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぶ

しんぶん 赤旗

日刊●月 3497円
日曜版●月 990円

見本紙をご自宅やお店などにお届けしています。お気軽にご連絡ください。